《第１５５号》　2010年５月創刊　　10月１日発行　2023年１０月号

姫路顕栄教会

エピファニー・タイムス

【住所】〒671-1152 姫路市広畑区小松町 4-36

編集責任者　牧師・司祭　ミカエル小南　晃

刈入れの季節に

実れる田の面は　見わたす限り
　穂波の立ちつつ　輝きにおう
垂り穂は色づき　刈り手を待てり
　いざいざ刈らずや　時　過ぎぬ間に
（聖歌２１３）

10月を迎えて、田圃は黄金色の稲穂で耀き、既に刈入れを終えたところも多いかと思います。冒頭の歌詞は収穫感謝の歌ですが、歌詞もメロディーも喜びに溢れています。何時の時代でも稲や麦は私たちの命の糧であり、その収穫を喜び、神に感謝することは当然であり、また大切なことです。

収穫のための働き人とは？

しかし聖書において豊かな収穫とは、神に救われる人々の譬えでもあります。

イエスは「収穫は多いが、働き手が少ない。だから収穫のために働き手を送ってくださるように、 収穫の主に願いなさい。(マタイによる福音書９：37)」と語られました。

これは救いに導くべき多くの人々がいるが、その救いの業のために働く人々、イエスの弟子や使徒、さらには時代を超えて宣教師や牧師といった教役者がさらに求められるということです。

今月から皆様に「収穫感謝献金」をお願いして参ります。今、この献金は神戸教区内の教会建物などの補修や修繕のために献げられることになっていますが、以前は教区聖職養成資金のために献げられていました。

今は教区神学生後援会という組織が出来て、そこで聖職候補生の養成資金が準備されています。しかし現在、教区で支えてる聖職候補生は１名もなく、また聖職候補生への志願者も与えられていません。

豊かな収穫とは？

ところで実際の田圃での収穫が多い様子とは見るからに喜びを誘うものです。しかしこの聖書箇所でイエスが収穫が多いと言われた状況とはどうであったかは、次のように記されています。

「群衆が飼い主のいない羊のように弱り果て、打ちひしがれているのを見て、深く憐れまれた。(マタイによる福音書９：36)」およそ喜びとはほど遠い、また神の救いからもかけはなれたかのような状況です。

しかしそのような状況の中に神の救いの兆しを見たからこそ「収穫は多い」と語り、そしてその為の「働き人が少ない」と告げられたということです。

「収穫の主に願う」祈りとして

今、私たちの教会、教区そして日本聖公会全体でも宣教不振が言われています。

しかし私たちの目には救いにはほど遠く、また宣教に不向きと思えるような状況の中にこそ、イエスが「収穫が多い」と語られた世界があるのではないでしょうか。

そしてまたこの時にこそ「収穫のために働き手を送ってくださるように、 収穫の主に願う」祈りを献げて参りたいと思います。